

# チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No75 2008年12月20日発行



今年もご支援ありがとうございました



◇日本人ボランティアによる折り紙教室／ベラルーシ「希望21」2008年8月

## 23周年救援キャンペーン

広河隆一 最新チェルノブイリ報告会  
2009年4月20日(夜)に決定

会場・文京シビックホール 小ホール

● 関連イベント (詳細は4ページに掲載)

三重県津市 4月19日(午後) 津センターパレス B1 津まん中交流館  
名古屋市 4月29日(午後) 名古屋国際センター別棟ホール

23周年救援カレンダー チェルノブイリをくりかえさないために

第60回 全国カレンダー展 **審査員特別賞受賞!!**

# 2008年の支援活動報告

今年も皆様からの募金のおかげで次のような支援活動を行うことができました。誠にありがとうございます。来年もチェルノブイリの子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。(円貨は送金時のレートで計算)

	ドル	円	内訳	
ウクライナ	医薬品代	51,000	5,572,000	内分泌研究所: 医薬品、超音波診断機
	運営費	15,000	1,494,000	ウクライナ 3 慈善団体*1
	特別保養費	25,000	2,903,000	汚染地域の子ども、甲状腺手術後の子ども
	合計	91,000	9,969,000	
ベラルーシ	医薬品代	19,000	1,417,000	ベラルーシ 2 慈善団体*2 と学校
	運営費	14,000	1,570,000	ベラルーシ 2 慈善団体*2
	保養費	84,000	8,657,000	汚染地域の子ども
	特別保養費	27,000	2,922,000	甲状腺手術後・腫瘍病の子ども、若い家族
合計	144,000	14,566,000		

\*1: 「チェルノブイリ家族の救援」「チェルノブイリ・子どもたちの生存」「にがよもぎの花」

\*2: 「困難の中の子どもたちへの希望」「チェルノブイリのサイン」

ベラルーシ「クラスノスロボダ・サナトリウム寄宿学校」への支援 \*3

慢性呼吸病の子どもたちが寄宿生活をしながら治療を受けています。2005 年には治療用のアロマテラピー器具を贈りました。今年はアロマオイルと医薬品の購入費用合計 700 ドルを支援しました。

ベラルーシ「児童健康回復センター“希望 21”」所長 V・G・マクシンスキーより感謝の手紙

みなさまのご理解とご支援は、いつも私たち職員と子どもたちを力づけてくれます。子ども基金と支えてくださっているすべての人々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

残念ながら私たちを取り巻く状況はだんだん厳しくなっています。政府はチェルノブイリの被害者への保障も削っています。また、ベラルーシ国内に原発を作ろうとしていることも大変問題です。エネルギー問題の解決を見出すことは必要ですが、それによって人々の健康が損なわれたらどうするのでしょうか。

政府が設定している保養費用では、子どもたちへの必要な活動が十分には行えません。少しでも収入を得るため、施設内にツーリス

トを受け入れていますが、それは夏の間しか見込めません。このような状況ですから、子ども基金からの支援がどんなに大事なものであるかわかりいただけだと思います。汚染地域の子どもたちが保養できるのは子ども基金からの援助があるからです。私たちはどんなことがあっても、子どもたちの健康回復を支えていくよう努めたいと思います。

来年も、病気の子どもの保養プロジェクトを子ども基金と協力して行いたいと思います。

ウクライナ・キエフ「内分泌研究所放射線診断部門長 V・マルコフ医師からの報告

今年も甲状腺ガン患者への医薬品購入費用をご支援いただきまして、ありがとうございます。現在までに受け渡した薬の数と患者数の報告です。

チロキシシン 100mgkg 1899 箱(1 箱 3.75 ドル)購入のうち、642 人の甲状腺ガン患者に 1889 箱を渡しました。

ニコメド社カルシウム剤 400 箱(1 箱 8.61 ドル)購入のうち、80 人の甲状腺患者に 385 箱を渡しました。

(薬を受け取った患者の年齢は 9 歳 ~ 24 歳)

甲状腺ガン患者にとって生涯にわたり必要なこれらの薬の購入費用のご支援を来年もお願いしたいと思います。

## 2009 年支援の予定

### ベラルーシ 児童健康回復センター 「希望 21」

汚染地域に暮らす子どもたちの保養費用の一部を支援します。また、子ども基金の企画「病気の子どものための特別保養」「甲状腺ガンの手術を受けた親とその子どもの特別保養」をこのセンターで行います。

### ベラルーシ 慈善団体 「困難の中の子どもたちへの希望」

この団体を通して特別保養に参加する子どもが選ばれます。ベラルーシの里子・奨学生の支援金の受け渡し窓口となっています。会員の子どもたちの薬代と事務所維持費の一部を支援します。

### ウクライナ 病院「内分泌研究所」

甲状腺の病気の患者の治療を行っています。患者の薬代を支援します。

### ウクライナ 慈善団体 「チェルノブイリ・子どもたちの生存」

この団体を通して特別保養に参加する子どもが選ばれます。ウクライナの里子・奨学生の支援金の受け渡し窓口となっています。事務所維持費の一部を支援します。



2008年6月 若い家族の保養に参加した子ども

### < 支援を終了する団体 >

これまで会員の子どもの保養や事務所維持費などを支援してきた下記の3団体の支援を終了することになりました。

### ベラルーシ「チェルノブイリのサイン」

甲状腺ガンの手術を受けた患者を会員にもつ団体。来年6月で団体を解散。外国のパートナーからの支援で海外・ベラルーシ国内で子どもたちの保養を行ってきました。現在、会員たちはほとんど成人したため、団体としての役割は終わったと判断し解散を決めたとのことです。事務所は閉鎖しますが、この団体を通して渡していた里子・奨学生の支援金については、必要な時期まで責任をもって受け渡しを行うことができると約束しています。

### ウクライナ「にがよもぎの花」

チェルノブイリ障害児を会員にもつ団体。今年11月で団体を解散。これまでは主に子どもたちのためのクラブ活動（折り紙、手芸等）などを行ってきましたが、参加する子どもの人数は減少し、新たな会員もいないため、団体としては事務所を維持する意味がなくなったと判断し解散を決めたとのことです。

### ウクライナ「チェルノブイリ家族の救援」

プリピャチからの避難民を会員にもつ団体。数年前からこの団体が所有する医療設備の利用が激減し、子ども用のクラブ活動（手芸、絵画教室）の停滞が見られるようになりました。代表者の高齢化と副代表者の死去などによりさらに活動が縮小されるものと思われるため、今年いっぱい支援を終了することに決定しました。それに伴い、団体の所有する保養所「ユージャンカ」を来年は利用しないことになりました。（現在、ウクライナの病気の子どもの保養施設を新たに探しています）

# チェルノブイリ 23 周年救援 4 月イベント

恒例の 4 月イベントについて、現時点での情報です(変更の場合もあります)。次号ではさらに詳しい情報をお届けします。また、ここにあげた 4 つの企画以外にチェルノブイリ関連企画がありましたらご連絡ください。次号で掲載させていただきます。なお、どの企画も実行委員募集中です。

2009 年 4 月 20 日(月) 19 時～ 文京シビックホール 小ホール

**チェルノブイリ最新報告**〔主催〕チェルノブイリ子ども基金 03-5228-2680

スライド講演 広河隆一さん

子ども基金の創立者で顧問の広河隆一は 50 回に及ぶチェルノブイリへの現地取材を行っています。このたび、2 年ぶりにウクライナ・ベラルーシを訪問予定です。

汚染地に今も住んでいる人々の状況は？ 汚染地の病院の様子は？ 子どもたちの健康は？ など最新情報の講演です。

ゲスト 石川逸子さん

2008 年版救援カレンダーに詩を書いていただいた詩人・石川逸子さんに「チェルノブイリ鎮魂曲\*」をバックに詩を朗読していただきます。

\* 1996 年に行われたチェルノブイリ 10 周年救援コンサートにあわせて、故作曲家の山田泉さんが作曲してくださいました。当日は鎮魂曲のほかのピアノ曲も弾いていただく予定です。演奏はピアニストの須山真怜さん。

4 月 13 日(月)～15 日(水) 文京シビックホール 展示室

**広河隆一チェルノブイリ写真展**

〔主催〕チェルノブイリ子ども基金 03-5228-2680

4 月 19 日(日) 13 時半～ 津センターパレス B1 津まん中交流館

**広河隆一チェルノブイリ講演会ほか**

〔主催〕三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金 0598-42-8875

2009 年 4 月 29 日(休) 13 時半～ 名古屋国際センター 別棟ホール

**チェルノブイリ報告会&絵画・写真展ほか**

〔主催〕チェルノブイリ 23 周年救援キャンペーン in 名古屋実行委員会 059-229-3078

現地情報を伝える(写真・絵画展示、被災者訪問報告\*、朗読、映像)、チェルノブイリに寄せる思いの表現(子どものバレエ、シンガーソングライターのライブ)、核問題を学ぶ(ヒロシマ被爆体験の研究者による講演会)、私たちの暮らしの隣にある被曝の恐怖や救援活動を伝える展示などを行います。\*子ども基金スタッフ・佐々木真理が現地報告します



## 2008年8月 ベラルーシ訪問

報告 佐々木 真理

ゴメリ市内にある「ゴメリ州立小児臨床病院」の看護婦 マリーナ・ラズトキナは、甲状腺腫の手術を受けた娘とともに、今年8月の「希望21」の保養に引率者として参加しました。「私の勤務する病院ではゴメリ州全土の病気の子どもたちを受け入れています。子どもの甲状腺ガンのピークは過ぎましたが、今は脳腫瘍や他の腫瘍病の子どもがとても多いです。未熟児の出産も多く、最近では性別の確定できない子どもが生まれています。甲状腺のない子どももいました。患者が多すぎて病室が足りません。いつまでこういうことが続くのか、とても恐ろしいと感じます」（この病院には、「通販生活」読者募金で保育器1台、子ども基金からはコンピュータ2台を2006年に寄付しています。）

### 里子訪問

#### F・アリーサ 2002年生まれ ゴメリ市

右側頸部の神経芽細胞腫。生後5ヶ月で発病し、化学療法8ブロックを受けた。治療のため長い間ミンスク市の病院に入院していた。現在は半年に一度検査を受けに行っている。ビタミン剤を服用。チェルノブイリ障害児に認定され、障害児年金を受けている。母親は病気の子どもの養育手当を受けている。父親は店員の仕事をしていたが2008年3月に失業。現在は求職中。

アリーサは市内のアパートで、両親と姉と4人で暮らしている。絵を描くのが大好きで、スケッチブックに描いた色とりどりの絵を見せて

くれた。「幼稚園では折り紙を習いました。とってもおもしろかった！」と目を輝かした。将来の夢は美容師になることだという。

#### S・カーチャ

#### 2006年生まれ ビテプスク州グルボコエ地区 クボシニキ村

先天性の新生児脳疾患。運動機能と知能の発達遅滞。両親と曾祖母、幼稚園に通う3歳の姉と暮らしている。検査と治療のため、3ヶ月に一度は入院する。入院中はいつも母が付き添っている。村から一番近くの町までは1日3回バスが出ている。村には店がなく、2週間に一度移動販売車が日用品・食料品などを売りに来る。

家族は畑で野菜を作り家畜を育てて生活している。

母親のマリーナ（1983年生まれ）は、1990年までゴメリ州ゴロドク村で暮らしていた。チェルノブイリ事故による高濃度放射線汚染地域となったため、ヴィテプスク州ポドスヴィリエ村に強制移住させられた。マリーナは1999年に甲状腺腫（左側部分）の手術を受け、現在もホルモン剤を服用している。「チェルノブイリ事故被害者の社会保



護」に関するベラルーシ共和国法によれば「甲状腺腫はチェルノブイリ事故と関連がある」と規定されているが、マリナはチェルノブイリ障害者には認定されず、障害者年金を受けられなかった。

カーチャは人見知りをしない活発な女の子。ボールを追いかけて走り回ったり飛び跳ねたりしていた。「こちらの言っていることはみんなわかっているようです」と母親は言う。母親本人も定期検査や治療が必要だが、「今は子どもの健康のことで精一杯です」と言う。カーチャの母親は農作業・家畜の世話や夫の祖母の世話も一人でしている。とても痩せていて、歯も何本か抜けているような状態。運転手をしている父親はよく他の町へ出張に行く。

姉ヴィクトリヤ（2005年生まれ）は未熟児で生まれ、生後1カ月間入院していた。3歳になる今も、まだ言葉を全く話せない。言語の専門病院へかかる必要があるという。

## K・マトヴェイ

### 2002年生まれ ゴメリ地区エリョーメノ村

黒皮腫と診断され、2006年3月、皮膚がん切除の手術を受けた。3カ月に一度ミンスク市の病院に検査を受けに行っている。その他に診断された病名は、両眼水晶体白内障、増殖性・脈管性筋緊張異常、心臓雑音、副腎の病気、第1段階の甲状腺炎、肝臓腫、脾臓腫。いつも頭痛に悩まされている。また、太陽の光で目が痛くなる。体の抵抗力が落ち病気がちだったため、幼稚園には通えなかった。

生後7カ月のとき父親は家族を捨てて家を出た。その後、母とマトヴェイは母の実家に移り住んだ。木造の一軒家で、庭で野菜を栽培して生活している。母親は以前看護婦の仕事をしていたが、人員削減があり現在は休職中である。

現在マトヴェイは白内障のための目薬を使っている。定期検査を受けているが、将来手術が必要とされている。これまで多量の薬を服用したため、アレルギーが出るようになってしまい、他の薬の服用は避けているという。母親は、



「葉草茶など、なるべく自然のものを与えて症状を和らげるようにしています」と話した。いろいろな病気があるため常に検査を受けている。最近受けた血液検査の結果もよくなかったという。背骨にも異常があり、水泳で筋肉を鍛えるリハビリを受けることになっている。

ゴメリ市内に障害者用アパートが割り当てられたが（※）、内装などの修理が終わらないため引っ越すことができない。来年1月くらいには引っ越したい、と話していた。

マトヴェイは車が大好きで、大人が読むような車の雑誌を熱心に見るため、いろいろな車の名前をよく知っている。家の前の通りに車が停まると、近づいていってながめたり、頼んで乗せてもらったりするそうだ。訪問したときも、私たちが乗ってきた車のそばを離れず、運転席に乗せてもらったりして満足そうにしていた。運転手（男性）ともすっかり仲良くなっていた。同行した救援団体の人は、「あの子には父親のような存在が必要なのでしょうね」と言った。運転手は私たちに「あの子はいったいどんな病気なのか？」と聞くので説明すると、「あんなかわいい子どもがそんな病気だなんて……」と言葉を失っていた。

---

障害者保障として割り与えられるアパートは、購入費用と家賃が一般の人の半額。購入費用は25年ローンなどで支払う。内装（壁・扉）やガス・電気・水周りなどの工事はすべて自費で行わなければならないため、その費用のない人はなかなか引っ越すことができない。

◆ チェルノブイリ事故の年に生まれた  
ベラルーシの二人の女性 ◆

子どものころに甲状腺がんの手術を受けた二人は、これまで「希望 21」の特別保養にも参加してきました。その後の様子をお伝えします。この二人をはじめ、甲状腺ガン手術を受けた患者は、定期検査とホルモン剤の服用なくして生きていくことはできません。

卒業・就職

R・エレナ 1986年生まれ ジロービン市

子どものころに甲状腺がんの手術を受け、その後母親を亡くしたエレナは、年の離れた姉に育てられました。数年前に父親も亡くしました。ミンスクの外国語大学で英語・フランス語を学び、今年6月に卒業しました。初めはミンスク市に残り仕事をしたいと思っていました。しかし、アパートの家賃が高すぎて暮らしていけないということで、卒業後は姉の住むジロービン市に戻りました。8月に訪問したときには旅行会社で働いていました。その後、待遇がよくないので退職した、という連絡がありました。なるべく地元で就職したいと思っていたようですが、なかなか仕事が見つからず、ミンスクに戻ろうか、外国で仕事をしようか、などとさんざん悩んでいました。そして10月にやっと学校の教師の仕事が決まりました。現在は英語とフランス語を教えています。

「なかなか言うことを聞いてくれない子どもたちもいて大変ですが、やっと見つけた仕事ですから、がんばりたいと思います」



結婚・出産

G・ジェーニャ

1986年生まれ ゴメリ市

ジェーニャの生まれたゴメリ市の村は放射線汚染地域となり、今は誰も住んでいません。家族全員でゴメリ市に移住後、甲状腺がんを発症し手術を受けました。

「手術後は首の傷跡を人に見られるのがいやで、いつも隠すようにしてまいりました。ところが「希望 21」の特別保養に参加して、たくさんの同じ病気の仲間と出会ったことがきっかけで、もう傷跡を隠さなくなりました。同じ大学に通っている顔見知りの女の子がこの保養に参加していて、そのとき初めてお互いが同じ病気を抱えているということを知りました。他にもたくさん友達ができました。この保養は、同じ町に住んでいても知らない者同士だった私たちを結びつけてくれました」

昨年秋に結婚、今年3月に女の子を無事出産しました。8月に訪問したときには、赤ちゃんを抱き幸せいっぱいの様子でした。子どもが健康で何よりです。少し心配なのは、彼女が出産前よりさらに痩せてしまったことです。少しずつ回復していつくれることを祈ります。



子どものころ甲状腺ガン手術を受けた女性から喜びの手紙(ミンスク市 23歳)

「とうとう私たちに待望の赤ちゃんができました。出産は来年3月の予定です。11月に超音波検査を受けたら男の子だとわかりました。夫は男の子をもつのが夢だったので大喜びです。私にとっては子どもが健康であることが一番大事です。12/18から2週間、チェルノブイリ障害者休暇を申請するつもりです。以前、これは有給休暇でしたが、法律の改正で無給になりました。でもたとえ無給でも休暇を取るつもりです。今は自分の体の心配だけでなく、赤ちゃんのことも考えなければなりませんから」

## 「サクリファイス」上映・チェルノブイリ救援報告会・里親交流会

2008年10月26日

チェルノブイリ事故当時、原発の事故処理作業を行ったことにより被爆し亡くなっていく人々のドキュメンタリー「サクリファイス」を上映。その後、今年の8月、「希望21」で行われた「甲状腺と他の腫瘍病の子どものための特別保養」の報告を、ボランティアの富永さんと子ども基金スタッフの佐々木が行いました。また、佐々木が今年3月・6月・8月に訪問した里子などの様子を報告しました。報告会の後には、里親交流会を行いました。関東在住の里親6人に加え、ボランティアとスタッフが参加しました。

### [報告 ボランティア 富永 安子]

「希望21」に来る子どもたちは、どんな小さなことでも喜んでくれる。日本だったらゴミにされてしまうような小さな紙切れでも大切に仲間と分けあう。そんな光景が印象に残った昨年でした。今年は、子どもたちが作りやすくして楽しめるもの、作ったあと役に立てられるものにしばって準備することにしました。

お手玉は、作る時間よりも遊ぶことを大事にしたいと思い簡単な作り方にしました。遊び方を覚えれば、家でもできるし、一人でもできる。教室が始まって、子どもたちにお手玉遊びを見せました。二個のやり方とたくさんある時の遊び方をやったら、とても興味を示してくれました。子どもの中には、いつでもポケットに持ち歩いて技をみがいていました。

指編みは、自分の指を道具がわりにしました。できあがれば、首に巻いて温かさを感じることができるし年齢に関係なく誰でもできるところがいい。

昨年と違うことが一つあったのです。それは、去年の特別保養に参加していた子が、アシスタントの役目をしてくれたのです。教室が始まる前に、材料を一人分ずつに並べ、困っている子がいると補助をしてくれたのです。教室が終わると、次の教室の準備をし、終わるとあとしまつをきちんとしてくれたのです。「お疲れさま」という言葉かけもしてくれたのには感心してしまいました。一定の時間内に終わらせるのは、一種の緊張感があります。気が抜けない状

態が終るとほっとした時に、疲れを感じます。そんな時、彼女の一言と時に肩のマッサージをしてもらおうと、立場が逆なのにと感じてしまいます。去年、知り合いになったことが、こんな大きな力になって戻ってきました。

染めものは、布を取り入れてみました。輪ゴムでしばるだけで、しばり染めができるのです。これなら、失敗なくできる。失敗と思ったことが、おもしろい模様になる不思議さがある。世界に一枚というハンカチ、スカーフができます。ある女の子から里親への手紙と一緒に染めた布を預かりました。一枚の布に、彼女がどれだけ感謝の気持ちを表しているかがわかりました。

私もボランティアをしながら、ボランティアって何だろうと思いました。自分のできることをする。私は、たまたまボランティアにこられた。それでも、夫の理解がなければできなくてないと思いました。現地に行かれなくても、特別保養のための費用が集まらなければできないことだと、あたりまえのところに考えがいきつきました。去年聞いた「希望21」の所長の話思い出し、ベラルーシの国そのものの情勢と、海外からの援助が年々減る傾向にあること、子ども基金への寄付も減ってきていることを考えると、何ができるのかと思います。経済面で支援できる人、通訳、事務作業できる人、どれ一つとっても、ボランティアで成り立っていることを考えると、できることをするしかないと思いました。

(次号につづく。2回に分けて掲載します)



### [上映会・報告会参加者の感想]

❖非常に有意義な報告会でした。個人的にも以前よりさまざまな思いはあっても、なかなか具体的な行動への参加ができずにきております。今後機会を通じて勉強していきたいとビデオの悲惨さを見て痛感しました。

❖参加者が予想より少なかった。20周年が過ぎてジャーナリズムが扱わなくなっている。しかしリクビダートルの実態を説明したサクリファイスのような資料はできるだけ多くの人に周知させたい。

❖善人が不幸になっていく姿にいたたまれない気持ちにさせられるドキュメンタリーだった。

❖チェルノブイリの発電所の近くの人々は、チェルノブイリの原発がとても危険でどんな事故が起きるかなど想像もしなかったと思う。日本は広島、長崎を知って、原子力のおそろしさを知っている人が多いと思う。しかし、今の日本には55基の原子力発電所があり、地域のためといって誘致する地方もあります。そして青森の六ヶ所には再処理工場ができています。私たちはこの再処理工場を止めたいと思っています。「チェルノブイリをくりかえさないために」。本当にこの気持ちを伝えたい。あきらめずこれからも言い続けるために、交流をすること、知ることが大切だと思いました。

❖朝日新聞で本日の催しを知って参りました。ドキュメンタリーは本当に大切なもので、当時の関係者の方がどう経験したか、感じたか、それを知れることは大変貴重なことだと思います。「若い人がチェルノブイリを知らない」と聞き、驚きました。自分も若くない、次の世代に知らせないと、と思いました。自分の世代ではリアルタイムだったし、この被害を誰もが目にしたことだったから。その後を知ることの怠っていたと思いました。イベントを開いてくれてありがとうございました。

❖具体的なボランティア活動のお話を聞けてよかったです。前に池袋の芸術劇場でチェルノブイリの写真展を観ました。事故処理にあたった人々の犠牲：ロボットの部品は溶けてしまっ

使えなくなるので、人力に頼らねばならなかった。国の保障が削られているという現状：外国の支援に頼らなくてはならないのはおかしい。

❖チェルノブイリに行って現実を見たい。

❖チェルノブイリの悲惨な状況をあらためて認識しました。微力ながらも子どもたちのために支援できたらと思います。

### [里親交流会 報告/事務局]

○ほかの里親の方々はロシア語ができるのか？

◇ほとんどの方はそうではない。手紙の翻訳はボランティアにお願いできるので、事務局に連絡ください。〔(注) たまたまこの日参加された里親の中で3人の方はロシア語ができる人でした〕

○里子に出した手紙が5か月後に戻ってきた。

○EMSで送っても紛失されたことがある。

◇基金スタッフが現地に行く時に預かるのが確実。直接里子に手渡せなくとも団体に渡す。

〔(注) 手紙のみ。荷物は預かれない〕

○子どもたちを寄付で招いているが、年々赤字だ。〔(注)この方は、里親のほかに日本に子どもたちを保養に呼ぶ活動もされている〕

○パソコンはどこの家にもあるのか？

◇里子は経済的に困難なので、持っていない子が多い。

○医療の優遇はどの程度か？

◇障害者に認定されれば、病状によってランクがあるが優遇される。病院は基本的には無料だが交通費などはかかる（以前は無料だった）。また、薬の種類によっては自分で買わなければならないものもある。

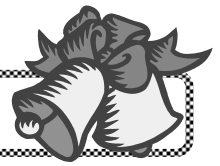
○いつ里親をやめたらよいのか？ フォスタープランの里親は何歳で終り、地域がよくなったら終り、とのルールがある。

◇里親制度が発足したときは、2年間は基金が仲介するが、その後は個人間の責任で交流してもらうという方針だった。翻訳についても事務局がすべてフォローできないと思ってあえてうたっていなかった。

※このほか、最近のキエフ・ベラルーシの物価事情などにも話がおよびました。



## 里親のページ



### 里親募集

重い病気を持ち経済的に苦しい家庭の子どもを2年間支援してくださる方を募集しています。費用は月50ドル相当の日本円です。お支払いは「月払い」か「半年一括払い」をお選びいただけます。現地の救援団体より支援要望のある10人の子どものうち、5人の里親がまだ決まっています。ご検討いただけるようでしたら詳しい資料をお送りいたしますので、どうぞご連絡ください。

### 里子の手紙

#### 「僕の心と僕の夢」

ベラルーシ ゴメリ市 イワン(12歳)

人にはそれぞれふるさとがあります。小さなふるさととは、自分が生まれた村や町だったり、住んでいる家や通りだったり、通っている学校。それから、お父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、兄弟や姉妹、友達。大きな意味でのふるさとと言えば、自分の国、ベラルーシのことです。僕はこの国が大好きです。世界で一番すばらしいところだと思います。

これまでに僕はドイツとデンマークに保養に連れて行ってもらったことがあります。北海やベゼル川の近くで保養をしました。海の上に見える星は大きくてきらきらと輝き、なんてきれいなんだと思いました。でもなぜか僕にはそれが冷たく見えました。僕はお母さんと一緒に見つめた夜空を思い出しました。小さい星ですが、あたたかく感じます。一番かわいらしくて親しみを感じます。僕は故郷がとても恋しくなりました。そしてお母さんやおばあさん、学校の友達や、猫のアンフィーサに会える日を指折り数えました。

ベラルーシで僕は生まれ12年間暮らしています。お母さんは僕に楽しくてためになるベラルーシのお話を教えてくれました。学校ではベラルーシの歴史を学びました。おばあさんはよく僕に戦争の話をしてくれます。その時どれほど多くの人が犠牲になったか。ベラルーシが復興し、明るい未来を建設していることを、誇りに思います。

しかし僕の故郷は悲劇に見舞われました。22年前の春、黒いコウノトリが不幸を運んできました。チェルノブイリの黒い灰です。土地も水も空気も放射能に汚染されました。そのために人々や動物や植物が病気になりました。みんなが再び新鮮な空気を吸い込むことができるよう、コウノトリが再び白くはばたいてくれることを強く願っています。子どもたちが病気にならないように、そして人々がふるさとを大切にすること。それから僕にはさらに夢があります。おとなになったら必ず天文学者になります。小さな惑星を発見したら、「ベラルーシ」という名前をつけます。

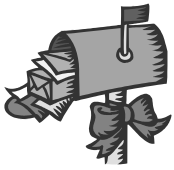
### 里親からの手紙

ニュース74号5頁で様子をお伝えした19歳の男の子が、9月29日に亡くなりました。里親Mさんの手紙を紹介します。

\*-\*-\*-\*-\*

#### パーベル君のお母さんへ

チェルノブイリ子ども基金から悲しい知らせを受け取りました。私は毎日パーベル君のために夜空に祈りました。何度か満月を向かえ、星の瞬きに祈りながら、お母さんも今一緒に祈っているかもしれないと思いました。毎夜、もしかしたらパーベル君は目覚めるかもしれない、そんな奇跡を願いました。でも、19歳の誕生日を前に辛く悲しい現実を迎えてしまいました。本当に悲しい。2006年の「希望21」での夏の保養に参加したときの写真はとても元気そうでした。写真の笑顔は本当に優しく楽しそうだったのに。なにも罪の無い若者が命を落とさなければならぬことが腹立たしい。十分に生きる手助けをしてあげられなかったことが腹立たしく悲しい。お母さん、あなたの悲しみを思うと私も胸が苦しくとても辛いのです。でも、どうか自分と家族のため元気になって下さい。パーベル君の19歳の誕生日に花を飾りました。もう、彼と同じような悲劇が起こらないように祈りました。どうかお元気で、さようなら。\*-\*-\*-\*



# ミンスク便り



ベラルーシの12月は暦の上で冬の始まりですが、今年の12月は冬とは思えない気温が続いています。長期予報によれば、この冬は観測史上最も暖かい部類に入る可能性もあるそうで、今日も季節外れの雨が降っていました。本来長く厳しい冬が続くベラルーシでは、冬や寒さを嫌う人が多いのですが、雪もろくに降らず、暗いだけで妙に暖かい冬らしくない冬は嫌がられるのです。

町の広場には、新年を迎えるモミの木も立てられ(旧ソ連では新年がキリスト教のクリスマスに成り代わっている)、屋外のスケートリンクもオープンしました。かなり地味ですが、ミンスクの町にも年末年始が近付いてきた雰囲気を感じられるようになりました。新年にはプレゼントを贈り合う習慣がありますが、お歳暮もなく、新年の挨拶も電話で済ませることの多いベラルーシでは、年末と言っても日本ほど慌ただしくはないように思います。お正月に集まってパーティーをすることはよくあり、そのためカーペットなどを外ではたいて埃を落とすのが、日本の煤払いに当たるでしょうか。新年前の一週間には、家庭で飾るためのモミの木を売る市が各地区に立ちます。最近では手間のかからないプラスチックのツリーが人気ですが、森から切り出されてきた針葉樹の香りは、やはり格別です。今年はミンスク市内だけで、4万本以上の木が用意されるそうです。

ミンスクでは、数年前に目抜き通り周辺で建物の外壁や歩道が相次いで改修され、都心部はすっかりきれいになりましたが、現在、市内のあちこちで自動車道路の大改修が進んでいます。これは、交通量の増大に伴って車線を拡大したり、新しいバイパス道路を作ったり、地下鉄工事に伴うものなのですが、市内の幹線道路数カ所が同時に閉鎖されているため、場所によってはかなりの渋滞が発生しています。前回ミンスクの公共交通機関をご紹介しましたが、地上の輸送手段では渋滞に巻き込まれる恐れがあり、

バス等に通勤・通学の足を頼らざるを得ない人々には、これまで以上に時間の余裕をみる必要が出てきました。

その点地下鉄は速くてよいのですが、問題がない訳ではありません。二本ある路線はいずれも延長され、沿線には新しい住宅群も広がっています。沿線人口の増加に伴って地下鉄利用者は増大し、朝の混雑がひどくなりました。私も先日、普段より早く家を出て地下鉄に乗ったところ、ちょうどラッシュのピークだったのが、満員で乗ることができず、電車を二本も見送る羽目になりました。二本の路線が交差する乗換駅では、各路線のホーム同士を結ぶ連絡路の混雑がひどく、この夏片方の駅を完全閉鎖し、エスカレータの拡充工事が行われました。当初の予定より工期を短縮し、町に人の戻る秋には駅が再開したのですが、蓋を開けてみると輸送量はまだ十分ではなく、ラッシュ時などにはこれまで同様、エスカレータに乗る人々が溜まってしまうようです。

最後に、世界的な金融危機の影響について。ベラルーシでもその余波は顕著です。通過相場の変動が激しくなり、人々はタンス預金をどの通貨にしたらよいか、頭を悩ませています。さらに、最近引き上げが続いていた公務員給与は再びカットされる模様で、国営企業での人員削減も噂されています。このため、多くの人々が日々の生活での儉約を意識するようになったと聞きます。ローンの金利が急上昇し、新規に借り入れをするのも非現実的となって、住宅購入を夢見ていた人たちにとっては厳しい状況となりました。もっとも、インフレは前からのこと、先の見通しが不透明だからこそ、早いことお金を使ってしまった方がいい、という心理もはたらいっているようです。今年も大晦日には、ぎりぎりになってパーティー準備の買い物をしようという人々で、店はごった返すことでしょう。

(花田朋子 ミンスク在住)



## チェルノブイリの歌声

～みなさんからのおたよりのコーナーです～



私は、今16歳のウクライナの少年を支援しています。お父さんは亡くなっていて、お母さんと、猫と小鳥と金魚とが彼の家族です。2005年7月から支援を始めましたが、しばらく経って彼に、「あなたの夢は何ですか？」と聞いたことがあります。彼は答えました。「健康になることと、よい教育を受けることです」と。今の日本の中学生の中に、このような答えをする子がいったい何人いるだろうか、と心を打たれた私は、すぐに書き送りました。「今すぐ、大学に行く決心なさい。その夢は、必ずかないますよ」。そして、彼が勉強を続ける間は、ずっと支援を続けよう決心しました。絵の上手な彼は、家族の誕生日やクリスマスに、手作りのカードを送ってくれます。心の温まるプレゼントです。今年9年生（日本の中3）を終えた時点で彼は、職業訓練校か技術訓練校へ進むか、あるいは、もう2年間勉強を続けた後に理工系専門学校か総合大学に進学するか、の進路の選択をしなければいけなかったようです。彼は後者を選択し、将来は物理とコンピューターに関連した職業に就きたい、と書いてきました。彼が未来に希望を持って勉強していることを知って、私も本当に嬉しく思っています。でも、彼のもうひとつの夢「健康になりたい」という、普通の人にとってはごく当たり前のような願いをかなえることは、残念ながら私の力の及ばないことです。治療のための費用を手助けすること位しかできません。それと、祈ることしか……。

東京都 N

大人も子どもも被曝が原因で亡くなる人が多いのでしょね。本当胸が痛みます。この人災の原因を一つでも増やしてはならないのに日本は原因の芽だらけで安心して生活できない国になっています。”長島の自然を守る会”（上関原発）は今日スナメリなどの生物を原告にして裁判を起しました。子孫に負の遺産を引き継がないように私ものがんばろうと思います。山口県 M

ヒロシマ・ナガサキと共に核の恐怖を全世界に示したチェルノブイリ。第二世代にもハンディの由、非核の実現を念じてやみません。幾つかのグループよりカンパの呼びかけあり。後期高齢者の病人。些少で残念。東京都 S

### 【カレンダー購入者の声】

毎年楽しみにしており、会社の自席にかけておりますと、少しずつ私もほしいと言う人が出てきて、まとめ買いをさせていただいています。今年も、子ども基金の紹介のリーフレットも同梱いただけると幸いです。ほかにこれとって活動に参加するようなこともできておりませんが、CO2削減を大義名分に、やっぱり原発でいいじゃないかという世論が作り出されていることがこわく思えるこのごろです。福岡県 T

私の上にあるこの空が、チェルノブイリの空とつながっていることを忘れずに、地球のどの場所の空ともつながっていることを忘れずに、明日の子どもたちに、今日と同じ素敵な空を見せてあげるために、自分ができることを考えていきたいと思えます。東京都 S

チェルノブイリ事故からもう23年になるのですね。いつもは、そのような過去をすっかり忘れて自己本位に生活してしまっています。皆さんのように過去の過ちを忘れず、今でも苦しみ続ける人々を支援し続けるということは、いかに貴重でかつ困難なことであるか、痛切に感じます。カレンダーを購入するくらいのことしかできない私ですが、今度のカレンダーは日本の原発も掲載されているそうですね。私自身は原発事業そのものには反対を通り越して憤りを感じています。しかし、夫が原発関係で働いており、非常に複雑なものがあります。今年のカレンダーは、プレゼントとして知人にも差し上げたのですが、来年1年、このカレンダーを見つめつつ自分自身が日々を過ごしたいと思えます。宮城県 I

## 本・絵はがき・CD・カレンダー・民芸品

販売品のご案内～収益金は子どもたちの支援に～  
子ども基金のホームページ、最新情報欄にて写真入りで紹介しています。

### 書籍

絵や写真を通してチェルノブイリについてわかりやすく紹介。チェルノブイリ事故を知らない世代にもぜひ読んでいただきたい本です。

1. 「生きていたい」チェルノブイリ子ども基金編(小学館) 1,600円 絵本

チェルノブイリ事故当時、被害にあった子どもたちが描いた絵と詩。ふりがながふってありますので、小学校低学年のお子さんにもお読みいただけます。

2. 「ニーナ先生と子どもたち」広河隆一著・写真(小学館) <日本語版> 1,300円 写真絵本

チェルノブイリ原子力発電所が爆発した後、ニーナ先生の村にも放射能がふり注ぎました。恐ろしい悪魔は、毎日暮らしている美しい自然の中に潜み、子どもたちの体を蝕み命を奪いつづけています。美しい写真で原発事故の真実を伝えます。

\* “英語・ロシア語版”(子ども基金発行・モノクロ簡易版) 日本語とのセット販売のみ 1,600円

4. 「ナターシャ チェルノブイリの歌姫」手島悠著・広河隆一写真(岩崎書店) 1,300円

チェルノブイリで被爆し、現在日本で音楽活動をしているナターシャ・グジーを紹介しています。ふりがながふってありますので、小学校低学年のお子さんにもお読みいただけます。

5. 「写真記録 チェルノブイリ 消えた458の村」広河隆一(日本図書センター) 8,400円

放射線汚染により人の住むことができなくなってしまった村々の貴重な写真記録集。

### 絵葉書

Eメールは早くて便利ですが、たまにはお友達や大切な人へハガキを出してみませんか。事務局の住所変更に伴い住所欄を消しているため大幅に値下げしました。

1. 「子どもの絵」1セット(10枚入り)500円 半額250円 \*絵本「生きていたい」より10点。被曝した子どもたちなどが描いている。

2. 「チェルノブイリのクワナトリ」1セット(5枚入り)500円 半額250円 広河隆一写真

3. 「チェルノブイリ被災地に暮らす人々」1セット(12枚入り)4種類がそれぞれ3枚ずつ含む) 200円 広河隆一写真

### ベラルーシ雑貨

かわいらしいベラルーシの雑貨はいかがでしょうか。

ご自宅用としても、また贈り物としても最適です。  
リネン・コットンのクロス 700円

色：ピンク色系、オレンジ色系、緑色系、黄色系、青色系、紫色系(ご希望の色の在庫がなくなった場合には、違う色のお届けとなりますのでご了承ください)

「消えた故郷・生命の輝き2」チェルノブイリ 15周年救援 CD

### ナターシャ・グジー CD

アルバム 2,000円  
制作 チェルノブイリ子ども基金

ウクライナの民族楽器バンドウーラの弾き語りと、ピアノ伴奏の歌 16曲。

ご注文方法： 住所 電話番号 氏名  
希望品名と数量を明記の上、

FAX・TEL・メールでお申し込みください。

送料：実費負担となります。

お支払い方法：振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。小額の場合には切手でのお支払いも可能です(封筒に金額分の切手を入れてお送りください)。

2009年救援カレンダー 好評発売中

「チェルノブイリ」忘れないで \*カレンダー発行

旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所の事故(1986年)を語り継ぐため、市民団体「チェルノブイリ子ども基金」(東京)が今年のカレンダーを発行する。同基金は、被災地の子どもたちの支援を目的に91年に設立された。カレンダーは16年振りに発行しており、今回は「チェルノブイリをくりかえさないため」にをテーマに、フォトジャーナリストで同基金顧問の広河隆一さんが撮影した被災地の子どもたち写真や風貌が添えられている。売り上げの一部は、被災者の医薬品代などとして使われる。

縦55センチ、横40センチ、1冊1500円(送料別)。問い合わせは、同基金(03-5228-2680)へ。



読売新聞 10/18日

カレンダーの宣伝用チラシが必要な方はお知らせください。

事務局では現地の団体や病院と日々いろいろな情報交換をしています。その一部を紹介します。

<ゴメリ市 慈善団体「困難の中の子どもたちへの希望」代表 ワレンチーナより 11/27>

子どもたちの“新年のお祝いの会”( )にご支援を本当にありがとうございます。あとで子どもたちの写真を送ります。

ゴメリで会員たちの集まりを開きました。カリンコヴィチ、モーズィリ、レーリチツイ、ナロヴリヤ、ペトリコフ、エリスク( )などに住む人たちがやってきました。みんなから日本の皆さんにくれぐれもよろしくとのことです。ご支援とご理解にとても感謝しています。

ディーマの父親が亡くなりました。私たちは葬儀の援助をしました。

パーシャの母親が事務所に来ました。息子を亡くしたとも辛い状態で、話しながらずっと泣いていました。

(ゴメリ州にある町の名前。団体の会員が住んでいる地域はゴメリ州全土にわたっています)

“新年のお祝い会”への支援を決定

甲状腺の病気、血液の病気、脳腫瘍、腎臓ガン、目の腫瘍などの子どもたちを会員に持つこの団体では、毎年子どもたちのために新年のお祝い会を開いてきました。ツリーを飾って全員の子どもたちにぬいぐるみやお菓子などをプレゼント。16歳で団体を卒業する子どもたちには記念品も贈ってきました。これまでは地元ゴメリ市の工場などがスポンサーになっていましたが、今年はどこからの支援も見込めず、毎年子どもたちが楽しみにしているこの会が開けなくなる、という連絡が届きました。特に村に住む子どもたちや経済的に困難な家庭の子どもたちにとって、1年に1度のこの会は大きな喜びとなっていました。これまで苦勞して続けてきたこのよい伝統を守れるよう、経費の半額1000ドルを

子ども基金が支援することにしました。参加する子ども的人数は280人、卒業生は12人です。



赤ちゃん誕生

前号(No.74 p.13)で出産予定であることをお伝えしたインナは、その後体調を崩すなど周囲をやきもきさせましたが、10月10日の朝(現地時間)、体重3kgあまりの女の子を帝王切

開手術により無事出産しました。ウクライナでは「小さめ」という赤ちゃんですが、毎日元気に泣いて日々大きくなっているそうです。名前はマリアンナです。念願をかなえてママとなったインナは、初めての子育てに忙しい毎日を過ごしていますが、健康状態は依然として注意を要する状態のため、年内一杯育児に専念した後、本格的な治療を受けることとなります。元気な「ウクライナのお母さん」として、ようやく生まれてきた子どもの成長とともに、これからの長い人生を歩んでいけるよう、一日も早い本格的な快復を願うばかりです。

(今号の7ページでもベラルーシから届いた出産のニュースをお知らせしています)

最新キエフ事情

(11/4 子ども基金ブログから一部引用)

<金融危機が始まった最中にキエフを訪問した知人より>

「キエフは市民生活に目に見えた“混乱”などは生じていませんでした(いつも混乱はしているわけですが)。両替等も普通に行われているようです。現地で聞いた情報によると、すでに新しい建物の建設はほぼ全面的にストップしているとのことなので、徐々に問題が顕在化してくるでしょう」

<12/5付 キエフ在住 通訳からのメール>

「世界もそうですが、ウクライナはもうメチャクチャです。先のことは不明です」

# \*\*\*\*\* 募金・救援状況 \*\*\*\*\*

募金状況 2008年9月～11月

	9月	10月	11月
郵便振替	83件	207件	173件
現金	2件	10件	12件
救援寄付金	448,338	*11,139,438	675,698
保養費	23,500	**1,542,100	70,772
特別保養費	***732,143	173,300	210,000
里子支援	170,940	514,080	98,710
医療機器支援	22,000	****243,00	3,000
22周年救援 キャンペーン	34,500	14,000	4,000
合計(円)	1,431,421	13,625,918	1,062,180

\* (株)カタログハウスより運営費として350万円、匿名の方より募金6万ドルを含む(10月) \*\*日本キリスト教協議会(教育部)より「希望21」へ募金140万円含む(10月) \*\*\*パルシステム東京より募金627,143円を含む(9月) \*\*\*\*日本キリスト教協議会より募金24万円を含む(10月) ☆他に現物寄付(商品券、図書カード、切手)11,782円分、ノートパソコン、Tシャツ

救援状況 2008年9月～11月<ベラルーシ>(単位:円)

希望21

・保養費(年間の保養費7%に相当 後期分) 4,196,878  
 ・特別保養費(残額分として) 617,804

困難の中の子どもたちへの希望

・保養費(バス、保険代) 179,156  
 ・運営費(スタッフ給料7～12月分、手数料) 173,729  
 ・里子支援10人('08.10～'09.3月分) 321,330  
 ・奨学生支援11人 353,463  
 ・若い家族支援5人 160,665

チェルノブイリのサイン

・運営費(スタッフ給料7～12月分) 264,600  
 ・里子支援9人('08.10～'09.3月分) 273,628  
 ・奨学生支援10人 308,114  
 ・若い家族支援6人 184,868

## 救援キャンペーンの報告

07年 超音波診断装置寄贈キャンペーン

収入(募金07年6月～08年11月末まで) 660件 8,524,000  
 支出 2台分 8,759,393

08年 特別保養費用・医薬品費用

収入(募金08年4月～11月末まで) 230件 1,211,690  
 支出 3,609,124

\*それぞれ不足分は一般募金より振替えました。多くの方々にご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

## ♥ 募金団体名一覧 ♥

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)

【9月】日ロ協会岩手県センター／実教出版 放射能倶楽部／FFC 普及会 リーダー同／市原ピースフェスティバル／広河隆一写真展事務局／生活協同組合 パルシステム東京／こだいら平和コンサート実行委員会／東京書籍㈱

【10月】㈱中村企画／山住医院／リサイクルグループ カリーナ／烏山区民センター／日本山妙法寺／わらべうたの会／日本キリスト教協議会／京阪さつきライオンズクラブ／新日本婦人の会 志木支部／みやぎ脱原発・風の会／広河隆一写真展事務局／㈱カタログハウス／真宗大谷派 高德寺／㈱桜井書店

【11月】学習院大学文学部自治会／うえのはらリサイクルの会／広河隆一写真展事務局／アトリエ ミュゲ／上野原 虹の会／民宿 夢民村／(有)ユーロアール／ほつけん三共㈱／日本基督教団 田名部教会／(社)アムネスティ・インターナショナル日本／川和保育園 父母の会／カトリック宮津教会 社会奉仕部

### 親愛なるキリスト教協議会のみなさまへ

みなさまが140万円を私たちのよきパートナーである「子ども基金」を通して私たちのセンターに寄付して下さったことに感謝しています。

子どもセンター「希望21」は汚染地区に住む子どもたちを受け入れてきました。滞在中に子どもたちが必要としている医療を提供し健康改善をはかってもらう助けをするための施設です。

パートナーと協力しながらセンターの職員は子どもたちの健康を守り強化するための特別プログラムを行っています。医療・教育・心理学の3つの要素からなり、それぞれがとても重要で、どの一つを欠いても成り立ちません。

サナトリウムでの治療や活動に対する国からの支援は全く不十分です。

みなさまの援助はセンターの活動、被災地の子どもたちに医療、教育そして心理的サポートを提供するために、とても大きな意味があります。

「希望21」所長 マクシンスキーより

## 事務局から

■◇■ニュース発送“ボランティア募集”■◇■  
3/21(土)1時~5時 場所:東京ボランティア・  
市民活動センター(通称ぼらせん:飯田橋駅ビル  
セントラルプラザ10階) 発送作業を手伝っていた  
だけの方を募集しています。少しの時間でも歓迎で  
す。参加される方は事前にメール、FAX、電話でご  
連絡下さい。T/F 03-5228-2680

■ボランティア作業日について  
毎月第1・3土曜日の1時半~5時半 ボランティア  
の方と作業を行っています。作業日を変更する場合  
もございますので、参加される方は前日までにご連  
絡ください。事務局への電話は平日午前10時~午  
後5時半の間に、留守の場合は伝言をお願いします。

12/27(土)~1/5(月)まで事務局は休みです。  
(1月のボランティア作業日は第3土曜日のみです)

■ニュースについて  
募金をくださった方には、その使われ方の報告とし  
て原則1年間お送りしています。また、ニュース購  
読費(2000円/年)も募っております。印刷・発  
送は実費の経費でまかなっておりますので、切手代  
とあわせても購読費以下で間に合います。残金は募  
金として活用させていただいております。

■ご寄付について  
振替用紙を事務作業の都合などにより、一律に同封  
させていただいております。決して募金を強要する  
ものではありません。なお、お払い込みいただきま  
した募金についての領収書は、原則、団体宛ては発  
行しております。そのほかに必要な方は、振替用紙  
の「領収書必要欄」にチェックしてください。また、  
当基金は任意団体ですので税金控除の対象になりま  
せん。合わせてご理解くださいますようお願いいた  
します。

ニュースをご購読の方で転居される場合には、新  
住所の変更をお知らせください。その際には、旧住  
所もあわせてお書きください。

❖23周年救援カレンダー【訂正】  
カレンダーの最後「救援活動情報」のページの右側  
に日本の原子力発電所一覧を地図と共に掲載しまし

た。その地図の北海道・泊原発の位置が違っていま  
した。【01】の数字が札幌の所にありますが少し上  
の泊の所になります。訂正してお詫びいたします。

❖“神楽坂事務局だより”ブログ  
チェルノブイリ子ども基金のHP「最新情報」より  
ご覧になれます。\*最新情報は随時更新中です。

❖編集後記  
ボランティアの方から、2月に『核分裂過程』を上  
映する、との連絡をもらいました。この映画はドイ  
ツのヴァッカーズドルフという小さな村の再処理工  
場反対運動の映画です。チェルノブイリ事故後、草  
の根的に広まった脱原発運動に関わりだしたばかり  
のころ、日本各地でも上映されました。あれから17  
年の歳月を経て、六ヶ所村・再処理工場を止めたい  
と願う人たちが、今、各地で上映会を計画していま  
す。詳しくは『核分裂過程』の公式HPをご覧ください。  
(向井)



2008年12月(詩 石川逸子)

チェルボナ・カリーナの紅い実  
かつてはジャムにして おいしく たべた  
カリーナは 再生 癒しの 意味  
ヒトの世の再生をねがって 紅く 光る  
チェルボナカリーナ



2009年1月 ウクライナ・ナロジチ地区

救援カレンダー、おかげさまでたくさんの方に購入していただいております。カレンダーがお手元に届いたときに、雨などにより、中身が汚れたりしてしましたら、お取り換えいたします。遠慮なくご連絡ください。

発行人 チェルノブイリ子ども基金 鈴木稔 発行日 2008年12月20日(年4回発行)  
〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel / Fax 03-5228-2680  
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316  
ウェブサイト=http://www.smn.co.jp/chno/index.html e-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp